

でん粉の価格調整業務実績について (令和6でん粉年度)

特産運営部、特産調整部

当機構では、砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律（昭和40年法律第109号）に基づき、コーンスターチ用輸入とうもろこしおよび輸入でん粉から調整金を徴収し、それを財源として国内のでん粉原料用かんしょ生産者やいもでん粉製造事業者に交付金の交付などの支援を行うことで内外価格差を調整し、国内のでん粉の安定的な供給の確保を図っている。

本稿では、令和6でん粉年度（令和6年10月1日～令和7年9月30日〈以下「6SY」という〉）におけるでん粉の価格調整業務実績について取りまとめたので、報告する。なお、でん粉原料用ばれいしょ生産者への交付金交付に要する国庫納付金が未確定のため、支出および収支は見込みでの記載となる。

1 でん粉の価格調整業務における収支

(1) 収入

6SYの収入額は、売買数量は前年度並みとなったものの、でん粉調整基準価格の引き上げによる調整金単価の上昇を受け、調整金収入は前年度比3億

円増となる91億円となった（表1）。

(2) 支出

6SYの支出額のうち、ばれいしょでん粉の交付金額は前年度並みの17億円であった。かんしょでん粉およびでん粉原料用かんしょは、他用途向けとの原料の競合によりでん粉への仕向量が減少したものの、交付金単価の上昇により、交付金額はそれぞれ前年度比1億円増の5億円、前年度並みの11億円となった。でん粉原料用ばれいしょへの支援として国の経営所得安定対策の財源として支出する国庫納付金は、調整金収入の増加などにより同4億円増の61億円と見込んでいる。これらの結果、支出合計は同5億円増の94億円となる見込みである。

(3) 収支

6SYの調整金収支は、3億円の赤字が見込まれており、期末残高はマイナス5億円（5SY期末：マイナス2億円）となる見込みである（図1）。その結果、調整金の期末残高は、3年連続でマイナスとなる見込みである。

表 1 6SY収支見込みおよび前年度比較

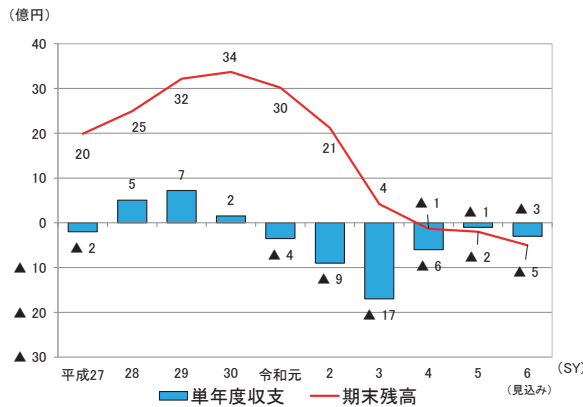
(単位：億円)

	令和4SY	5SY	6SY（見込み）	対5SY増減
収入	85	88	91	3
支出	91	89	94	5
ばれいしょでん粉	18	17	17	0
かんしょでん粉	6	4	5	1
ばれいしょ (国庫納付)	52	57	61	4
かんしょ	15	11	11	▲0
単年度収支	▲6	▲1	▲3	▲2

注1：ラウンドの関係で合計および増減が一致しない場合がある。

注2：ばれいしょ（国庫納付）は確定前のため見込みを記載。最終確定は令和8年2月の見込み。

図 1 でん粉の調整金収支の推移



注：ラウンドの関係で単年度収支と期末残高が一致しない場合がある。

2 調整金徴収業務

(1) 6SYの指標価格等

6SYを含む直近3年間の指標価格等は表2の通り。

表 2 直近3でん粉年度の指標価格等

	令和4SY	5SY	6SY
でん粉調整基準価格（円/トン）	175,760	179,340	182,240
前年比（円）	+ 9,800	+ 3,580	+ 2,900
指定でん粉等調整率（%）	5.217	4.705	4.550
前年比（ポイント）	+ 0.734	▲0.512	▲0.155

注1：でん粉調整基準価格とは、輸入でん粉等と国内産いもでん粉との価格調整の基準となる金額。

注2：指定でん粉等調整率とは、輸入でん粉等の輸入者から徴収する調整金の負担水準を定める率。でん粉の内外コスト格差に当該率を乗じて、調整金単価を算定。

(2) でん粉の需要と供給

令和7年9月に農林水産省が公表した「でん粉の需給見通しについて」（以下「需給見通し」という）

によると、6SYのでん粉の需給動向の見込みは、表3、4の通り（詳細は、本誌2025年11月号「でん粉の国内需給」を参照）。

表3 でん粉の需給見通し

(単位：千トン)

		令和5でん粉年度（実績）			令和6でん粉年度（見込み）		
		10－3月	4－9月	計	10－3月	4－9月	計
需要	糖化製品	761	888	1,649	765	898	1,662
	化工でん粉	117	120	236	117	123	241
	その他（製紙用、ビール用、片栗粉など）	246	273	520	230	271	501
	合 計			2,405			2,404
供給	前年度繰越			8			7
	国産いもでん粉（生産量）	162	－	162	169	－	169
	かんしょでん粉	11	－	11	10	－	10
	ばれいしょでん粉	151	－	151	159	－	159
	調整金 徴収 対象						
	コーンスターチ	964	1,119	2,083	957	1,112	2,069
	輸入でん粉 （糖化製品、化工でん粉用）	66	68	133	69	74	143
	輸入でん粉（その他用）	6	4	10	7	9	16
	小麦でん粉	7	7	14	7	7	14
	合 計			2,411			2,418
次年度繰越				7			14

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

表4 でん粉需給の推移

需要

(単位：千トン) 供給

(単位：千トン)

でん粉 年 度	需要量計	糖化製品 (異性化糖・ 水あめ等)	化 工 でん粉	その他	繊維・製紙 段ボール	ビール	畜水産 練製品	その他	でん粉 年 度	供給量計	かんしょ でん粉	ばれいしょ でん粉	コーン スターチ	輸 入 でん粉	小 麦 でん粉
平成26	2,568	1,721	324	523	182	98	17	226	平成26	2,568	39	186	2,190	136	18
27	2,658	1,754	336	568	190	98	17	263	27	2,658	36	197	2,273	135	17
28	2,653	1,753	337	564	200	96	16	252	28	2,653	37	175	2,271	152	17
29	2,673	1,737	323	614	198	92	15	309	29	2,673	31	178	2,303	144	17
30	2,656	1,772	328	557	207	86	15	250	30	2,656	27	168	2,295	150	17
令和元	2,462	1,666	301	495	184	71	13	227	令和元	2,462	27	164	2,108	148	16
2	2,382	1,625	265	493	183	65	14	230	2	2,382	22	156	2,048	141	15
3	2,402	1,612	269	521	197	72	15	237	3	2,403	23	167	2,052	145	16
4	2,455	1,664	258	533	201	72	15	244	4	2,455	16	167	2,116	142	14
5	2,405	1,649	236	520	191	73	14	241	5	2,404	11	153	2,083	143	14
6 (見込み)	2,404	1,662	241	501	191	74	15	222	6 (見込み)	2,404	10	152	2,069	159	14

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注1：需要のその他の欄のその他は、片栗粉、菓子、麺類、調味料、建材、医薬、飼料などの計である。

注2：供給数量は、かんしょでん粉およびばれいしょでん粉について、前年度繰り越し分を加え、次年度繰り越し分を減じている。

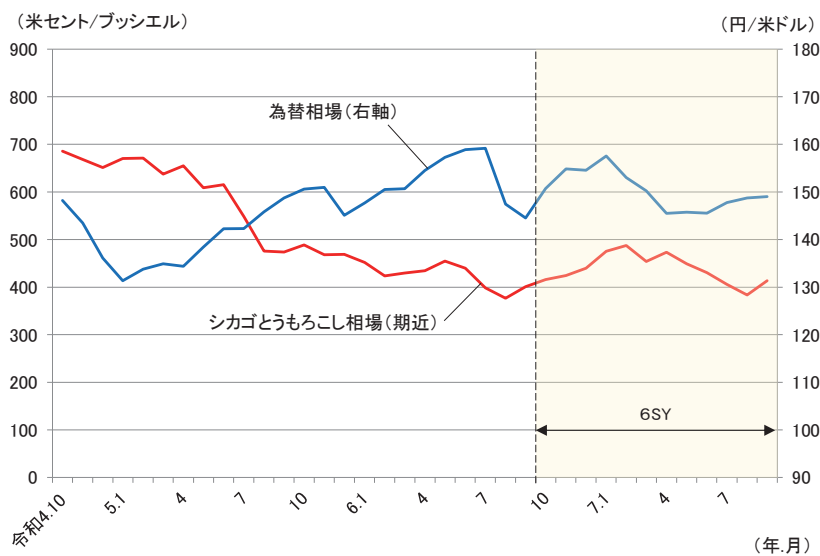
注3：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(3) 国際相場などの動き

シカゴとうもろこし先物相場（期近）の6SYの動きは、SY前半は、アルゼンチンの高温乾燥や米国の生産量予測の下方修正などにより上昇基調で推移し、令和7年2月には一時1ブッシェル当たり500米セント台前半まで値を上げた。3月には米国産の作付面積の増加見通しなどをを受け、同400

米セント台半ばまで値を下げた。他方、SY後半は、米国の90日間の相互関税適用停止などにより、4月に一時的に同500米セント近くまで値を上げたものの、米国の順調な作付状況やブラジルの豊作見通しなどをを受け、おおむね下落基調で推移した。9月の平均価格は同413米セントとなり、前年同月比3.2%高で6SYを終えた（図2）。

図2 米国産とうもろこしのシカゴ先物相場と為替相場の推移（月平均）



(4) 指定でん粉およびコーンスターチ用
輸入とうもろこしの平均輸入価格等

6SYにおける指定でん粉等の平均輸入価格等は、表5の通り。

表5 指定でん粉等の平均輸入価格等

SY		平均輸入価格 (円/トン)	でん粉 (円/トン)			とうもろこし (円/トン)			とうもろこしシカゴ相場		為替 (円/米ドル)
			買入価格	売戻価格	調整金単価	買入価格	売戻価格	調整金単価	(米ドル/ ブッシェル)	(米ドル/トン)	
令和4	令和4年 10月～12月	106,480	106,480	110,094	3,614	67,450	69,908	2,458	6.64	261.23	138.50
	5年 1月～3月	107,960	107,960	111,497	3,537	68,956	71,361	2,405	6.68	262.88	143.59
	5年 4月～6月	101,540	101,540	105,412	3,872	64,516	67,149	2,633	6.61	260.29	133.69
	5年 7月～9月	96,720	96,720	100,844	4,124	61,013	63,817	2,804	6.29	247.69	137.09
5	5年 10月～12月	93,630	93,630	97,663	4,033	56,802	59,544	2,742	5.08	199.96	145.09
	6年 1月～3月	94,180	94,180	98,187	4,007	56,966	59,691	2,725	4.76	187.40	149.45
	6年 4月～6月	92,300	92,300	96,395	4,095	55,920	58,705	2,785	4.38	172.38	148.81
	6年 7月～9月	95,760	95,760	99,692	3,932	57,907	60,581	2,674	4.45	175.01	156.14
6	6年 10月～12月	87,030	87,030	91,362	4,332	53,500	56,446	2,946	3.91	154.06	151.84
	7年 1月～3月	91,760	91,760	95,877	4,117	56,470	59,269	2,799	4.23	166.55	152.17
	7年 4月～6月	96,660	96,660	100,554	3,894	59,477	62,125	2,648	4.71	185.60	154.39
	7年 7月～9月	89,140	89,140	93,376	4,236	54,576	57,457	2,881	4.55	179.23	146.11

(5) 売買実績

6SYの輸入でん粉およびコーンスターチ用輸入とうもろこしの売買数量は、それぞれ前年度並みの13万4000トン、303万4000トンとなった。

売買差額は、調整金単価が令和7年4～6月期を

除き前年度を上回ったことから、輸入でん粉が前年度比3.5%増の5億5600万円、コーンスターチ用輸入とうもろこしが同3.2%増の85億4600万円となり、合計で同3.2%増の91億200万円と前年度をやや上回った（表6）。

表6 指定でん粉等の売買実績

SY	輸入でん粉		コーンスターチ用輸入とうもろこし		売買差額合計 (百万円)
	売買数量 (千トン)	売買差額 (百万円)	売買数量 (千トン)	売買差額 (百万円)	
令和4	132	502	3,110	8,044	8,545
5	134	537	3,035	8,283	8,820
6	134	556	3,034	8,546	9,102

3 交付金交付業務等

(1) でん粉原料用いもおよび国内産いもでん粉の生産動向

ア でん粉原料用ばれいしょ・ばれいしょでん粉

北海道のばれいしょ生産は、近年180～190万ト

ン程度で推移しており、その約4割がでん粉原料用に仕向けられている。

6SYについて、需給見通しによると、酷暑だった前年に比べ8月中旬以降の気温が下がり、でん粉含有率が回復したことから、ばれいしょでん粉の生産量は前年度比5.3%増の15万8000トンとなる見込みである（表7）。

表7 ばれいしょでん粉の生産状況等（北海道）

SY	作付面積 (千ha)	単収 (kg/10a)	収穫量 (千トン)	でん粉用	でん粉生産量 (千トン)
令和4	48.5	3,750	1,819	727	154
5	48.5	3,950	1,916	754	150
6（見込み）	48.7	3,840	1,870	761	158

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

イ でん粉原料用かんしょ・かんしょでん粉

南九州のかんしょ生産は、生産者の高齢化による離農を主たる要因として、作付面積は減少傾向にある。

6SYについて、需給見通しによると、サツマイ

も基腐病（もとぐされびょう 立ちがれ たちがれ かいこん 塊根部の腐敗をもたらし病害）の発生面積は減少したものの、他用途向けとの原料の競合により仕向量が減少したことから、かんしょでん粉の生産量は前年度比9.1%減の1万トンと過去最低となる見込みである（表8）。

表8 かんしょの生産状況等（南九州）

SY	作付面積 (千ha)	単収 (kg/10a)	収穫量 (千トン)	でん粉用	でん粉生産量 (千トン)
令和4	13.1	2,201	288	51	15
5	12.8	2,221	284	37	11
6（見込み）	12.7	2,331	296	35	10

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注：「南九州」の範囲は、鹿児島県および宮崎県。

（2）交付金の交付状況など

ア でん粉原料用いも交付金（かんしょのみ）

6SYのでん粉原料用いも交付金^{（注1）}は、交付金単価（免税事業者）は前SYから2050円引き上げられ、1トン当たり3万2340円となったものの、

他用途向けとの原料の競合によりかんしょでん粉への仕向量が減少したため、交付決定数量は前年度比5.4%減の3万5000トン、交付決定金額は同0.4%減の11億1100万円となった（表9）。

（注1）収穫期はおおむね9月から12月であり、いもでん粉製造事業者への売渡しに応じて交付金を交付している。

表9 でん粉原料用いも（かんしょ）交付金交付決定実績

SY	交付決定数量 (千トン)	交付決定金額 (百万円)
令和4	51	1,467
5	37	1,116
6	35	1,111

イ 国内産いもでん粉交付金

（ア）ばれいしょでん粉の交付状況

6SYのばれいしょでん粉に係る国内産いもでん粉交付金^{（注2）}は、交付決定数量は前年度比2.2%減の8万8000トンとなった一方、交付金額は、交付金単価の引き上げにより同1.8%増の17億円と増加した。

（イ）かんしょでん粉の交付状況

6SYのかんしょでん粉に係る国内産いもでん粉交付金は、他用途向けとの原料の競合によるでん粉への仕向量の減少により、交付決定数量は前年度比10.0%減の9000トンと減少した一方、交付金額は、交付金単価の引き上げにより同35.1%増の5億3100万円と大幅に増加した（表10）。

（注2）ばれいしょでん粉およびかんしょでん粉の販売は年間を通じて行われ、販売数量に応じて交付金を交付している。

表10 国内産いもでん粉交付金交付決定実績

SY	ばれいしょでん粉		かんしょでん粉	
	交付決定数量 (千トン)	交付金額 (百万円)	交付決定数量 (千トン)	交付金額 (百万円)
令和4	97	1,835	16	612
5	90	1,670	10	393
6	88	1,700	9	531

(3) 国庫納付金納付（でん粉原料用ばれいしょ）

6SYのでん粉原料用ばれいしょに係る国庫納付金^(注3)は、調整金単価の上昇による指定でん粉等の調整金収入の増加などにより、納付金額は前年度を上回る60億5500万円となる見込みである（表

11）。

（注3）でん粉原料用ばれいしょ生産者への農業の担い手に対する経営安定のための交付金の交付に要する経費の財源に充てるため、農林水産大臣からの通知に従い、国庫納付金を納付している。

表11 国庫納付金納付実績

SY	国庫納付金額 (百万円)
令和4	5,214
5	5,745
6（見込み）	6,055